

令和7年度第2回
松戸市総合教育会議会議録

令和7年10月15日

松戸市総合政策部政策推進課

令和7年度第2回松戸市総合教育会議
次第

日時：令和7年10月15日（水）
午後1時00分から
場所：教育委員会5階会議室

1開会

2議事

議題1 松戸市教育大綱の基本理念について

3その他

4閉会

◎開会

○渡邊政策推進課長

それでは、定刻となりましたので、会議を始めさせていただきます。

本日はご多忙の中、令和7年度第2回松戸市総合教育会議にご参集いただきましてありがとうございます。

本日司会を務めさせていただきます、総合政策部政策推進課の渡邊でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは皆様机の上に用意していただきしておりますが、資料を確認させていただきたいと存じます。まず、本日の次第でございます。

それから席次、出席者一覧の名簿でございます。

続きまして、右上に資料1と書いてございます「現・松戸市教育大綱」といったもの。

それからA4横の白黒3枚つづりの資料2でございます。

次に資料3のスケジュール、最後にA3横のカラーのものとなります、「現・松戸市教育大綱と見直しの視点について」となってございます。

不足等ございませんでしょうか。

よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、これより松戸市長に議事の進行をお願いいたします。よろしくお願ひいたします。

○松戸市長

進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

まず、傍聴についてご報告をいたします。本日の会議では2名の方から傍聴したい旨の申し出があります。本会議につきましては、本日、非公開にすべき事項がないことが見込まれるため、松戸市総合教育会議規程第7条に基づき、公開とし、松戸市総合教育会議傍聴要領に基づき、傍聴人の受け入れについて許可いたします。

また、会議開会以降、傍聴希望者があれば随時入室を許可いたします。では傍聴人を入場させてください。

次に本会議では、議事録を公開したいと考えております。また正確を期すため、録音につきましても、ご了承願います。

今回の会議の議事録署名人については、波田教育長、中西委員の2名にお願いいたします。

それでは、これより令和7年度第2回松戸市総合教育会議を開会いたします。それではお手元にお配りしております次第に沿って議事を進めたいと思います。

本日の議題は、松戸市教育大綱の基本理念についてであります。教育大綱の基本理念を中心に、皆様のご意見を頂戴したいと思います。

進め方といたしましては、資料について、担当部署から説明した後に意見交換を行いたいと思います。まずは事務局の説明をお願いいたします。

◎松戸市教育大綱の基本理念について

○渡邊政策推進課長

それでは、資料1から資料3までにつきまして、議題の付議部署である総合政策部伊東部長から説明をさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

○伊東総合政策部長

総合政策部長の伊東でございます。本日もどうぞよろしくお願ひいたします。

本日議題の松戸市教育大綱の基本理念についてでございますけれども、今回は教育大綱の基本理念を中心に合わせて、基本理念を支える4つの柱についてもご検討いただけたらと考えております。

検討のために本日用意した資料について簡単にご説明いたします。

資料1は、前回のご議論を振り返りまして、本日の議論が円滑に行えるよう、市の関係部局で調整した主な修正箇所を例示したものでございます。

資料2は、前回の会議において、改定にあたり、福祉と教育環境、新たな文化スポーツの3つの視点を提案し、皆様からいただきました発言要旨を整理したものでございます。

資料の3は今後のスケジュールについて提示させていただいております。

それでは、資料が前後いたしますが、まず資料2で前回会議を振り返り、本日の議論につなげたいと思ひますので、資料の2をご覧ください。

初めに、福祉の視点ですが、市長から、子どもの体験格差、デジタル化など、変化の中で、誰1人取り残さず、すべての子どもがチャンスに恵まれる教育環境をしっかり整えていきたい。また、国の動向からも、子どもまんなか社会の実現に取り組みたいとあり、伊藤委員から、子どもまんなか社会という新しいフレーズを入れたほうが良いといったご意見がありました。和座委員からは、子どもの人権、子どもが意見を言う機会、参加することで、自己肯定感が高まる。中西委員からは、子どもの意見をどのように、どれだけ聞くかが重要。山形委員から、福祉の視点は、子どもの権利を柱にするくらい重要。波田教育長からは、和座委員からご発言があった子どもの人権の視点、子どもの幸せ感はどういうことなのかを考えながらの素案づくりが必要である、といったご発言がございました。本市の大綱にこれまでも表現をしていました、子どもの権利ですが、子どもまんなか社会の実現を明記することが必要で、子どもの意見を取り入れながら、様々な変化に対応して誰も取り残さない教育を、といった内容であったと存じます。

次に、教育環境の視点でございます。

市長から本市の学校は老朽化が進んでおり、快適に学べる環境整備が必要な一方、少子化が進む中、国からも新たな教育の形が示されており、時代に合った学校に変えていかなければならぬとありました。山形委員から、学習環境は、ハードだけでなくソフトも盛り込んで欲しい。波田教育長から、教育環境はソフトも含め質の部分が重要といったご意見があり、総じて、時代に合った学校のあり方をハード、ソフト両面でしっかりと作っていくことが重要といった内容でございました。本市として、学校だけでなく、図書館をはじめ、インフラなど、公共施設の更新は最も重要な課題の1つとなっており、更新にあたって、多くの皆様の声を取り入れ、新たな時代にふさわしい機能を、ハードソフト両面で、教育委員会だけでなく、市全体で取り組みを進めて参りたいと考えているところでございます。市民の皆様とともに取り組み作り上げ、その取り組みが情報として市民の皆様に届き、やはり松戸がいいねと思っていただけるように努めていくことが大事だと考えているところでございます。次に、新たな文化スポーツの視点ですが、市長から若者文化を中心に、新たな価値観が創造されている中、今まで、学校では勉強や特定のスポーツの評価が重視されがちだったが、一人一人の個性や思いを教育の中で拾い上げていくこと。新しい文化、例えばダンス、漫画、アニメ、そういうところの活躍できることも、自己肯定感に繋がるのではないか。或いは、部活動の地域移行の動きがあり、民間の方々のお力も借りていかなければならぬとあり、中西委員から、新しい文化スポーツは、地域と連

携すれば、広げられるジャンルもある。山形委員からは、スポーツも松戸の強み、外に出られない子がオンラインで繋がり、外に出るきっかけになったりできる。武田委員からは、日本人特有の利他の精神が、部活動を支えているといった研究もあるので、こどもが頼れる大人としての部活動顧問や保健室の先生が選ばれていることもあるといった発言がございました。伊藤委員からは、文化とスポーツで松戸の魅力価値を高めますではなくて、松戸の歴史文化を保護継承して学習することが大事。市民みんなが気軽に取り組める環境を作っていくことが大切なのではないかとあり、総じて若者文化を含め、多様な文化に触れる環境が人々の成長に役立つのではないかといった示唆がえられたと考えております。最後にその他として、市長からこどもが夢を持って成長できるようにするには、教育委員会だけでなく、オール松戸で取り組む。和座委員からは、言語活用科は、自分の考えを人にわかるように説明する力を身につけられる。波田教育長から言語活用科は、文部科学省の特例認定を受けた松戸市独自の教科であり、こどものコミュニケーション能力を高め、グローバル社会で活躍できることもいかにつくるかが重要といった発言の他、武田委員から、加速度的な教員不足の解消。教員のモチベーションを高めるためには、教員が体を疲れさせないような環境を提供することも大事といったご発言もありました。

次に資料の1に移っていただきたいと思います。

今振り返りました、前回のご議論を踏まえまして、庁内各関係部局で一同に会し、検討を、現時点での修正箇所を赤字で記載をしておるところでございます。ひとまずの修正でありますので、本日も皆様の貴重なご意見を頂戴いたしまして、改訂を調整して参りたいと存じます。

まず、赤字で囲った基本理念ですが、前回の議論を踏まえ、修正箇所なくそのままで提示をさせていただいております。すべての市民が生涯を通じ、学ぶ喜びを感じられ、未来に向かって成長できるように、互いに助け合って孤立することなく互いを育める環境を作る。変化し続ける社会に対応し、より広い世界へ、みずから飛躍していく力を育み、みんなで松戸の未来を創ることもたちの未来を育み、みんなが生き生きと暮らせる松戸市へ。「みんなで育てる、みんなが育つ、松戸の未来」には未来志向と教育委員会だけでなく、オール松戸で取り組もうとする表現となっているものと認識をしております。

また、未来は、現在よりもさらに先にある不確かで予測しにくい時間を表し、しかしながら期待を込めた表現となっており、まさに教育は未来への投資となる政策でございます。

基本理念を支える柱につきましては、こどもまんなか社会を柱の2つ目の5行目に記載をさせていただきました。

次に、柱の3つ目の運動を、「スポーツ」、或いは「スポーツ、趣味など」に変更しました。

次に柱の4つ目ですが、全面的に修正し、「松戸の歴史・文化を保存活用するとともに、多様な文化に触れる環境を整えます」に修正をいたしました。

また、学習することを、主体性を表現する意味で、「楽しみながら学ぶ」という表現に、最後に「施策の推進にあたって」という表記をプラスし、市長部局と教育委員会のより一層の連携などを記載をしております。

最後に資料3をご覧いただけますでしょうか。

今後のスケジュールについての簡単な表記ではございますが、本日の第2回総合教育会議の後、来年の年明けに第3回総合教育会議にて、本日の議論を踏まえた修正をした素案をお示しし、検討いただき大綱を改定して参りたいと存じます。

説明は以上でございます。ご審議のほどよろしくお願ひいたします。

○渡邊政策推進課長

ここからの意見交換に先立ちまして、事務局からお願ひが2点ほどございます。

1点目は、議事録作成の関係から、ご発言の際にはお名前をおっしゃってからご発言いただければと思います。

2点目、ご発言の際はできるだけマイクに近づきまして、ご発言くださいますようご協力のほどよろしくお願ひいたします。それでは市長進行の方お願ひいたします。

○松戸市長

資料の説明は以上となっておりますが、ここまで説明について質問等ございましたらお願ひをいたしたいと思います。

(波田教育長)

参考資料が1点付いておりますが、その説明は特にありませんでしたが、それはよろしいですか。

○伊東総合政策部長

参考資料におきましては前回の総合教育会議でご提示させていただいた資料となっておりますので、説明は省略をさせていただいたところでございます。

またご不明な点がございましたら、回答させていただきたいと思います。

よろしくお願ひいたします。

○松戸市長

他に何かご質問等あればお願ひいたします。

それはないようありますので、総合政策部長から説明がございました資料説明の内容を踏まえて、早速、意見交換に移らせていただきます。

これまでの経緯とですね、皆様からいただいたご意見を踏まえて、今回、この基本理念、そして4つの柱を作成をさせていただきました。

今日いただきます意見を元に、先ほどもスケジュールがございましたが、年明けくらいには3回目の総合教育会議を開かせていただきまして、教育大綱の素案を皆様にご提示をさせていただくことになります。

今回修正を加えたこの基本理念、そして4つの柱に関して、何かご意見があればどんどんと頂ければと思っておりますが、いかがでしょうか。

(伊藤委員)

今回いくつか修正していただき、色々検討いただいたことがよくわかるような内容になっておりますが、少し気になるのが資料1の基本理念を支える柱の4になります。今回かなり全面的に書き直されて、松戸の魅力や価値を高めますというのではなくて、そのような色々な文化に触れる機会をさらに増やしますということで、私としてはかなり良くなつたのかなという感じがします。しかし、その中に多様な文化芸術活動を通して、国際的な広い視野で文化を創造できる環境を整えますとあるのですが、「多様な文化芸術活動を通して」というのはよくわかるのですが、いきなり国際的な広い視野でとい

うふうに、いきなり国際的なという言葉が出てくるので、一体これはどういうことなのかなと、少し違和感を感じております。

○松戸市長

伊藤委員ありがとうございます。

確かにこの文化芸術活動を通して国際的な広い視野という文脈がですね、若干、論理的に飛躍をしているような感じもしますので、どういう趣旨なのか、あればまずは伊東部長の方から説明をいただきたいと思います。

○伊東総合政策部長

ご質問ありがとうございます。先ほども申し上げた通り修正が途中だということを申し上げたのですけれども、先日の総合教育会議で出た内容について部局で話した際に、多様な文化という部分に、やはり国際的なものも入るのかなというところで入れさせていただきました。

こちらの参考として、「柱に基づく主な施策（市全体）」というところで、「多文化共生の推進」というところを入れさせていただいているところではございますが、少し論理的に飛躍し過ぎているのかなというところも私も同感な部分もございますので、この部分については検討させていただきたいと思います。また、例えば多様な文化という表現と、国際的なものというところで、何かご示唆がいただけたら、参考にこれから調整も図っていきたいと思っているところでございます。

（伊藤委員）

私の印象としては、多様な文化芸術活動を通して何をするかという時には、やはりそういう活動を通して文化振興をさらに図っていくことが大事だと思っております。

同時に旧来のものだけではなく、新しい文化も創造できるような環境を整えます、ということであれば非常にすっきりするのかなという感じがしました。ですので、例えば「多様な文化芸術活動を通して、文化振興を図るとともに新たな文化を創造できる環境を整えます」というような感じですと非常にすっきりするのかなと思います。

この「国際的な広い視野」というのは、僕は小中学生の勉強にも何かグローバル化等、色々出てくるので、そのような時に「国際的な視野」というのは付けなければと思いますが、今回その文化芸術の中で必ずしも「国際的な視野」というのは、もちろん理想的にはそうなのかもしれませんけれども、少し理解しにくいのかなとかと思います。

以上です。

（和座委員）

今のお話に関連付けて、と私の考えも少し述べさせていただきたいのですけれども、今多様な文化ということで国際的な部分については、少し語弊があるかもしれないというお考えで僕もそれはそれでよろしいかと思いますけれども、一方でこの松戸は、結構外国の方たち多いですよね。

私もクリニックで見ておりますと、大体10%までいかないですけど色々な国の方がいらっしゃいます。そういう中で、最近少し懸念を持っているのはジャパンファーストという言葉があって、何かやはり外国の人たちに対してのその排除感みたいなものが醸成されるというのは非常に危険だと思っています。

やはりお互いにその文化を尊重し合う、だから日本の文化というのはこれだ。だから、あなたたちもそれに従ってくださいというような言い方ではなく、もちろん彼女たち或いは彼らたちは今日本で住んでいるわけだから、もちろん尊重してもらいたい。

ですが、我々もあなたたちの文化というのはどんな文化なのか知りたい、というような双方向のコミュニケーションが非常に重要じゃないかと思っています。

ある、最近のノーベル賞のこと等で聞いた話なのですが、やはり創造的な研究というのは、非常に多くの様々な国々の人たちが、色々な意見を言う中で培ってきて、特にアメリカ等は非常にそういった部分では素晴らしいところがあります。

ですので、日本の場合でも、色々な外国人たちも取り入れながら、そういう人たちが日本の環境の中で、それこそノーベル賞を取れれば、これはもう日本にとってすごく素晴らしいことだとおっしゃっていた先生がいらっしゃったのですが、私はまさにその通りだと思います。ですので、双方向の考え方というのはすごく重要であって、そういう意味で、やはりこの多様な文化に触れる環境を整えるということは、すごく大切なことだと思います。

そして、先ほど言いましたようにお互いに尊重し合って、お互いの文化を知り合うということが根底になければ、これはできないと思いますし、お互いの信頼関係を醸成していくということがすごく重要なではないかなと思います。

以上です。

○松戸市長

ありがとうございました。

何か、部長の方から何かありますか。

○伊東総合政策部長

ありがとうございます。多様な文化に触れる環境という言葉を、庁内で考えさせていただいた中で、すごく大事なのではないかというところは、私も考えておるところでございます。

あと、その環境というところの言葉だけだと、どうしても少しハード的な意味にとられがちになるかもしれない、そういう機会を増やすとか、そういう言葉でもいいのではないかという意見も、庁内では出ておりますので、また、最終案になるときには、そういう意見も踏まえて、調整を図っていきたいと思います。

また、ご示唆いただければありがたいと思います。

よろしくお願ひします。

(中西委員)

基本理念を支える4つの柱の、表現についての修正的なところを、前回の発言とも絡めてそれぞれ申し上げたいと思います。

一つ目の柱については、デジタル社会にしっかり対応できる教育という視点が欲しいなと思いました。ＩＣＴの効果的な活用だけではなく、こども自身がデータ社会に対応できる人になって欲しいという意味で、入れるとしたら多分4つ目の丸のところではないかと思いますので提案します。

二つ目の柱では、こどもまんなか社会というのは、まさにこども家庭庁がけて、基本法がけてという中でのキーワードだと思いますが、であるとすると、こどもの権利が尊重されるだけではなく、

一番の重要なところは子どもの声を聞くということだと思います。実際に参考資料の方に、子どもの声を聞いてどうこうしている施策が今あるかというと、なかなかはっきりは見えないですけれども、おそらくこれが重要な点だと思いますので、子どもの声を聞いて、なおかつ権利が尊重されるというような表現はどうかなと思います。

三つ目の柱については、運動がスポーツに変わっているのですけども、例えば新しいスポーツといったような視点という辺りもあってもいいのかなと思います。

あと、地域と学校の関係が一言この中に取り込まれて、一緒になってそういう生きがいを持続される社会を作っていくんだというような視点があってもいいのかなと思いました。

以上です。

○松戸市長

ありがとうございます。

地域の話であるとかデジタルの話、子どもの声をきちんと聞くとかですね、様々なご提案をいただきましたので、そちらに関してはまた次の案で生かしていきたいなと思っております。

(武田委員)

前回の発言をまとめさせていただいた中で、私が気づかなかった視点で山形委員が、子育てはお母さんのおなかの中に、お子さんができたときからだつていう部分について、他の自治体のもの見てみたのですが、その妊産婦からのケアというのは、あまり書いてあるものがなかったように見受けられました。その中で、今の2の教育環境の視点のところで、乳幼児期からという部分を思いきって妊産婦からというふうに変えて、なおかつ、前回の発言の中で何人かの委員さんの中で福祉という言葉がキーワードとして出てきたので、この中に、もちろん切れ目のない援助とか支援ということも大事なのですから、今問題なのが、メンタルケアの部分が一番大事なのかなと思います。

それによって、ここの市でお世話になりたいなという気持ちになるのかなと思いますし、小児科に関しても松戸は誇るべき医療を持っているので、そういったところを前面に打ち出していくことで、松戸で子どもを教育したいと思って選んでもらえたり、子どもができたときの環境を整える前に妊娠前のお母さんたちのメンタルから向き合いますといったような一步手前からの取り組みも大事だと思います。

1の方がどちらかというと教育に対する文言の比重が大きいという形でもいいのではないかと読ませていただきました。

メンタルのケアに関しては妊産婦に特化したことではなく、不登校児童生徒数が増えたりとか、色々な意味で、この5年の中で、何がすごく変わったのかということを一番教育大綱の見直しにあたつて注視しなければいけない点だと思います。

先ほど中西委員がおっしゃったデジタル社会に対応する、というのもタブレットが配られたのは5年前からですし、他の市が謳っていることではないことで、松戸がしっかりやっていることは今回の見直しの中に、より理念として整えていければ良いと思います。そういった福祉の視点の文言を増やしていきたいなということと、やはり時代の変化に合わせていけたらいいのではないかと思います。

○松戸市長

本当におっしゃる通りで、私も色々な活動していると、子どものメンタルのお話を非常にたくさんいたたくことがあります。

相談する方をもっと増やして欲しいとかそういう話をたくさんいただきますので、おっしゃる通り入られたら、松戸の教育にとっていいのかなと思います。

(武田委員)

すでにやっていることがたくさんあるので、そういう取り組みを抽出して、この施策に基づいているのだなというところから導き出すと言葉って自ずとできてくると思います。いじめに対するホットラインについても、複合的に色々なところに、結びつくような仕組みなど、松戸では、どういった気持ちでそういうことを申し上げる方が訴えやすいかみたいなところまで考えて、様々なホットラインを複数引いていたりとか、すでにやってることに対して、お伝えできるかを考えしていくのもいいのかなと思います。

○伊東総合政策部長

感想になってしまふのですけれども、本当に今は不安な世の中でございますので、先ほど和座委員がおっしゃったように、外国の方が増えていると外国の方と接し方がわからないので不安になったりとか、そういうのもありますしあとタブレットをもらって、学校からもらってきたけどこれでどうやって勉強していくように指導したらいいのか。保護者がタブレットで学んでいませんので、どうやってやるのか多分想像ができる世の中に今なっていて、そういった中で市長も仰いましたようにメンタルの不安感をやはり市として受けとめるとか寄り添うという姿勢が大事なのではないかなというのを今、改めて思いました。

どのように反映するかについては、また検討させていただきたいと思います。

よろしくお願ひします。

(和座委員)

先ほどね、乳幼児から子どもの成長というのを妊娠婦からというところのお話について、最近プレコンセプションケアという言葉が言われています。プレコンセプションケアというのは、若い男女、将来の妊娠とか、子育てを含めた上のケアといった取り組みをしていきましょうという意味となっておりまして、非常に重要なことだと思っております。

今、武田委員がおっしゃったのも、まさにそれとなります。

やはり最初のその段階から、もっと、子育てということが始まる、その前の妊娠婦或いはその認識の前、そしてさらには実は子宮頸癌ワクチンもそれに関係するのですけれども、そういった、できるだけ妊娠をするときに子宮頸癌にならないような形でのセクシャルなインターフェースというものを含めた形での教育という、この辺りはなかなか今文部科学省の方が、性的な部分についてのことがなかなかきっちとストレートには言えない部分あるのですけども我々医師としてはですね、やはり今非常に性病が、若い人たちに対しては非常に増えてきている。

そういう中でやはりもつときちつとした形でやといかないといけない。

16歳を超えて同意すれば、セクシャルは問題ないということになっているのですが、逆に言うと非常にそういうことを、もっと早く我々としては取り組んでいかないといけない。16歳になったら、同意

すればできるわけですから、そうなると、16歳というのは高校の1年生2年生の頃ですよね。だから非常にやはり早い段階でのそういう教育も必要になってくる。そういうことも含めたプレコンセプションケアですよね。

だから、そういうことをここで、お話ししておきたいなと思います。だから、もっと幅広く、切れ目なく、まさに切れ目ない教育ですよね。そしてそういう中で、しっかりとした形で、こどもたちを見ていかないといけない。それはすごく大切なことじゃないかと思いますし、こどもまんなかの社会の中で、これはすごく重要な概念ではないかと思います。

(山形委員)

武田委員がおっしゃってくださったように、私もこの2番の、松戸らしさという部分で子育て支援が本当に充実していて、色々なママからお話を聞くと子育て支援が充実しているから引っ越してきたという方に、毎月必ず1人以上は会うような状況でもあります。先ほどのお話の中でも、教育は未来で、子育て支援もまさに未来で、そこが協力し合えるのが松戸なのではないかなと思います。是非ここには妊産婦さんから、もしくは、先ほど和座委員がおっしゃったプレコンセプションケアの考え方、プレコンセプションケアは人生がひと続きに幼児期、思春期、青年期とライフサイクルが、グルグルと回っていくような形の考え方で、アメリカもこれを25年前からやっているのがようやく日本に入ってきたような世界感になっています。

そういうところで、こどもまんなか社会という文言が入ったこと本当によかったなと思います。その中で子どもの権利や人権に関する「誰1人取り残さない」の中での1つの中に、先ほど中西委員もおっしゃった子どもの言葉をもっと抽出できること、これは施策の方になるのかと思いますが、その言葉を理解することと、子ども自身を理解することというのが、大切だと思います。妊娠期からは、私も両親学級などでお話しをする機会がありますが、保護者が多忙化していく中でも、子どもの発達の理解が皆さん勉強されているからこそ、実際に目の前でできないときへの落胆感失望感とか発達への心配が広がっているような感覚があります。

その中で先ほど伊東部長がおっしゃった「安心」という言葉も入ってもいいと思います。松戸は子どもを安心して教育したいと思えるようなというような、大綱に言葉が入るといいかなと思いました。先ほど武田先生がおっしゃったような、その5年間で変わったことの中での子どものコミュニケーション能力の低下、言葉の教室のニーズも増えている現状、子育て支援でも、言葉の難しさは、外国籍のお子さんもそうじゃない子もいらっしゃいますけれども、コミュニケーション、人間関係のところがとても重要なポイントと思っています。そういうところが反映されるような大綱でもあって欲しいなというところがあります。

人権についても、人権というとても固いのですが、「自分らしく生きる」という言葉に言い換えると、すべての市民の方にも通じると思うので、そのような人権のキーワードも入ってもいいと思います。また、他市でこどもたちに大綱に意見をください、という取り組みをやっている場所もあります。子どもの意見を入れる機会がもしあれば、1月までの間にでも、ぜひ、小学生難しければ中学校、もしくは松戸は市立高校がありますから、市立高校の生徒さんに大綱を見てもらって、何か意見をもらうというのを、プロジェクト学習の1つとして、やってもらうなどもできるといいのかもしれません。私たちが、思っているこども、自分がこども時代だと思うと、生まれたときからインターネットとスマートフォンがあるこどもたちと、今生きている感覚が違うので、そういう新しい目線もあるといいと全体像を見て思いました。

最後に1点私の方で、この基本理念のみんなで育といふ、みんなが育つ、この順番というか、何かみんなで育てるのはどうしても大人がこどもを育てるような貢献的な感じがします。

みんなが育つといふ、自分たちがまず育つといふことも大人も一緒に育つといふような主体性の言葉を、もしこどもを主語にといふ感覚だったら、みんなが育つ・育てる方が、いいように思いました。「子育て」も「子育ち」なんて言つたりしますから、そういうところで、意図的にみんなが育つ、そして育つといふみたいな方が、もしかすると、いいのかもしれないという感覚は私の中で、この表現を見て思つておりました。

以上になります。

(波田教育長)

色々今意見を伺つていて、まず私、資料1を拝見させていただいたときに、一番最初に見たのが一番上の基本理念、で、今山形委員さんがおっしゃったような、一番大元のキャッチフレーズ的なものは、次の段階で考えるべきだなと思っていて、ただいまのお話を伺つてるとその通りだなともちろん思うのですけれど。この3行は3つの文節で分かれています、まず「松戸市は」から始まる1行目は多分、こういう姿というような実現したいことを言つてゐるのだと思います。

市民がこういう姿になって欲しいということを実現したいということで言つてると解釈できます。そこで考えると、学ぶ喜びを感じられというその一文ですけれども、喜びを感じればいいのかなと何となく思つてしまふ部分があります。

その喜びといふのは人によって色々な解釈の違いがあつて、例えば、誰でも健康で豊かな生活を送りたいとかということになるのかとか、ちょっとその辺のところの言葉の使い方、逆に、実現したい姿なんだから未来に向かって成長できる、そういう市民のためにどういう環境を作りますかというような表現がいいのか。まず一番上の文章を、書かれている内容はいいと思うのですけれど、そこを一旦整理するべきだなと思っています。

そのために何しますよといふのが、2行目に書いてありますよね。

そこで一番ちょっと違うかなと思うのが、「一人一人が孤立することなく」ってマイナスのイメージのような気がするんです。

多分、一人一人が、例えばもっと意欲的にとか意欲を持ってとか向上心を持ってどうするからこうしたいといふような、ちょっと孤立するといふのはわかるのですけれどね。

イメージとしてはわかるのですが、少し前向きな表現の方がいいのかなと思います。

さらにそして、もうちょっと具体的に考えたときに、先程伊藤委員がおっしゃっていた言葉が、その広い世界へといふところがね、その広い世界とは何なのかといふところを考えたときに、だんだんこう具体化していくかなきゃいけないのではと思っているので、それをさらに具体化して支えていくのが4つの柱なのだろうなといふには思つて見つてるので、まずこの作り方の、階層のようなものをしっかりと押さえるべきだなと思っています。

基本理念を支える4つの柱の、まず主語を考えるべきだなと思っています。それで考えたときに、2つ目の松戸でこどもを教育したいといふ表現なのかな。先ほどの、山形委員が言つたのと同じようなイメージになつてしまふのですけれど、育てたいのか教育したいのか。

こどもを教育するために、松戸市がやりたいことなのかなとか、主語が何なのかなといふところがもうちょっとこうイメージしていくと、いいのではないかなと思っていました。

具体的なことは、皆さんお話をされたことは最もだなと私は思います。

それから、4つめ、文化スポーツと限定的じゃなくてもう少し広いところで多様な文化に触れるというような流れで非常にいい表現になっておりますけれど、ここで、松戸に誇りと愛着を持つというようなところが非常に重要で、その郷土愛をどう育てるかということが1つ。

すごく重要なと感じていて、本当に1例を申し上げますと、学校教育の中で、例えば明治維新の学習をすると、色々な国がやった政策を出すのですけれども、明治期に、松戸はどうだったのか。

もっと極端なこと言うと、僕たちの学校のある地域が明治のときどうだったのかとかというふうに、そこまでやはり1歩突っ込んだ学習ができると。

多分これは学習指導要領上でやらなければいけないことがあるので、発展的な学習としてとらえなきゃいけないですけども、そこまで踏み込んだ学習ができると、松戸って本当に昔からこんなにすごいことやとたんだよねとか。こんなに色々なことがあったよねというようなことがわかるのかな、と考えていくと、この大綱の持つ意味というのは非常に重要だなと感じています。

それを最終的にこの右側のページの施策に落としていくときに、今回、事務局さんの方できちんとまとめていただいているこの視点を、例えば一番上の、家庭教育支援の充実というのは、福祉の視点なのか何の視点なのかというところを、例えば括弧書きで落とし込んでいくと、すごくわかりやすいような気がします。

福祉と、ここで言っているような教育環境と新しい文化スポーツと書いてあるのですが、その視点がいいのかどうかとのも議論していただきて、福祉とか医療とか、本当に教育環境でも学校教育なのか、社会教育生涯学習なのかとかという、そういうところを落とし込んでいくと1つの施策の中に、医療の部分もあるし学校教育の部分もあるし何とかの部分もある、という形で、1つに一対一の対応ではなくていいと思うので、複数の対応があれば、これはこの大綱を見て、教育委員会もそうですけれども、市長部局の皆さんのが自分事として、このことについては、何らかの形で取り組むべきだという認識を持つていただけだと、もっともっと松戸市全体の力が高まっていくような気がいたします。

○松戸市長

ありがとうございました。

一旦、ここで何か感想とか意見をちょうだいできたらなと思っております。

○伊東総合政策部長

少し戻ってしまうのですけれども、和座委員のプレコンセプションケアに関するご発言ですけれども、やはり松戸市としても今少子化などの社会課題に対してどう取り組まなければいけないかということで子育て支援とか、すごく政策として充実させなくてはいけないという状況となっております。現実の社会を見ると、若い方々が、結婚がなかなかできないとかその人生設計もなかなか難しくなっているといった現実もあり、だから妊娠、出産とか、あとは人生をどうやって設計していくかとかといったライフデザインなど、山形委員の方でも広い視野でこうグルグル回るといったイメージのことをおっしゃっていただきましたけれども、本当にその通りで、こどもが学校に行っているからその子だけを見るのではなくその子の保護者もいて、あとはその子の関係の方々もいてという、色々な視点でこう見ていかないと、社会課題がなかなかうまくいかないのではないかというところで今、ちょうど総合政策部としても取り込もうとしているライフデザインということの考え方があります。

あとは、2番の安心して教育したいという部分については安心してというところがより大事なのではないかというところ。あとは松戸らしさというところを言っていただいて、それがすごく参考になるかなと思いました。

あと、実は検討いただいた1回目の総合教育会議の後、教育長にもう1回アドバイスをいただいて、本日を迎えているところですけれども、アドバイスをいただいている中で、やはりこの松戸市教育大綱を市役所全体で、一生懸命やっていかなくちゃいけないというところがありまして、そのための松戸市教育大綱でもございますので、教育長がおっしゃっていただいた参考の市全体の取り組みのところの整理ですか、そういったところもまた、今日、来ていただい部局の皆様と一緒に、整理をしていきたいなというところを、今思っているところでございます。

簡単ですが以上でございます。

○松戸市長

今まさにおっしゃったように総合教育会議、教育だけでなくですね、市長部局というか、福祉であるとかスポーツ文化スポーツ部、様々な部署が連携をしながらやっていくという意味でのこの総合教育会議でありますので、今、伊東部長がおっしゃった通りですね、教育だけじゃなくて市長部局の方も考えなければいけないこともありますので、そこは連携をしていかなければいけないと。

ただその中でこの教育大綱でどこまで落とし込んでいくのがいいのかということも考えていかなければいけないところでもありますので、少しそこは難しいところなのですが、今いただいたご意見を参考にまた修正をしていこうと思っております。

今、波田教育長がおっしゃっていた通りですね、これさらっと読むと、そんな違和感がなく感じる文章だと思います。総花的に書いてあって否定はできないなと思うのですが、やはり1つ1つきちんと読み込んでいくと、確かにおっしゃる通り一人一人が孤立することなくという、ネガティブなことがないようにということで、あまり夢がないというか、もう絶対大事なのですけれど、そういう文言1つ1つも、次に出すときには、きちんと精査をしなければいけないのかなと私も感じました。

今、皆さん一巡してですね、色々なご意見があったと思うのですけれども、そういったまた執行部というかですね、部長からも意見がありましたけれども、それを踏まえてですね、またさらに突っ込んで何か感想等があればお願ひします。

(和座委員)

私が前々から少し話していた、いわゆるこどもたちを1つの軸で見ないで、できるだけ多軸で見ていくと。その時に、知的な部分だけではなくて、もっとこどもの互いに共感できたり或いは自分の気持ちをしっかりと伝えたり、或いは、お互いのその気持ちを共有する中で多分、コミュニケーションが非常に円滑に行くと思うんですけども先ほど山形委員がおっしゃっていたコミュニケーションの部分ですよね。

その部分について、しっかりとした教育をしていくということをちょっと、いつもお話をしていたのですけれども、実はここを見ると、しっかりと書いてあるのですね。

こどもたちが、みずから健やかな体の、知・徳・体のバランスのとれた生き方、これはまさにそうで、知というのは、いわゆる学力や知的な部分だと思うのですが、特定の相手を考えるとか、そういうふうなことですよね。

体とのはもちろん健康についてです。肉体的な健康、心の健康も含めてですけれども。

そのあとに、自己肯定感を育み社会的に自立し多様な人々と協働しながら創造的に生きていくという、まさにこれこそ、教育の本当に大きな目的ではないかと思います。やはり人間、幸せに生きてたいですから、幸せに生きるためにはどうしたらいいかというと、それはやはり、人は漢字でもそうですが、お互いに重ね合わせながら書くわけです。社会的な存在ですから。

自分がその社会の中でどんな役割を持って貢献できているかということを感じられると、すごくやはり、幸せな気分というはあると思います。

ですから、そういう意味で、やはりこういったことについて、お互いにですね、みんなでこの話を、こういった自己肯定感を含めて、こういったところに創造的に生きていくという、その部分についての落とし込みが、僕はこれは、ちょっと今、自分なり解説して話したのですけども。

こういったところがしっかりとできていますので、この部分を十分に活用していただきながら、前も話した、いわゆる言語活用科というところは、今言ったような、コミュニケーションの部分を取るためにすばらしい取り組みをもう10年近くやっているんですね。だけど私はいつも、そのところに国語というところで、比較的にはまりこまってしまってですね、もっとこの普遍的な今言ったような、その要素を色々な学科の中で、もっともっと發揮できる、そういうふうな形でも広げていければいいなと思います。これは基本理念の中の、落とし込みの話を今していますけれども、そういう形で、もっともっとこれを広げていければ、多分言語活用科の事業というのは素晴らしいものだし、それをもっともっと広げていければ、今言ったような、その幸せの部分についての、その取り組みという、本当に教育の原点の部分が僕はできるんじゃないかなとそのように思います。

以上です。

(山形委員)

和座先生のお話から続いて、本当に幸せについて学ぶことは、何のために学んでいるのか、何のために生きてるかと言ったら「幸せになるため」ということがいえるのではないかでしょうか。幸せな人生を送るために私自身も学んでいます。まとめると市民の方も皆さん幸せな気持ち、まさに今言われるウェルビーイングだと思います。

幸せについて考えていく中で、先ほど波田教育長がおっしゃったこの3行のところを分散して考えていくと市民の幸せのために、一人一人孤立することなくというのは、言い換えると繋がりがある、というような言い方にもできます。広い世界というのは難しいですけど、自分らしくとか支えあえるとかそのような形で、いくらでもアレンジがポジティブにできると思いました。

先ほど市長部局でも、ライフデザインというところの話をされていましたが、武田先生もおっしゃったメンタルケアのことを市長も、たくさんの方から、本当に10代のメンタルヘルス、それが波長していきながら、精神疾患の方が本当に増えている流れがありますよね。そこに、ある意味、居場所というところがキーワードになっていくと、松戸市つながるステーションの事業もしてくださっていますから、そこでの愛着形成、「ここにいていいんだよ」といったまさにホームタウンというかそれが、郷土愛というかその町への愛情になってここにいていいんだというものを育むことができる気がします。世の中で自己肯定感を高めようとよく言いますけど自己肯定感を高める前に、自己受容感、自分がここにいていいんだというような、愛着形成の素地みたいなものを作るような教育施策というのはあまりないと思っています。何かやはり学力が高いとか、部活動でスポーツできるからなど、すごくポジティブで自己肯定感もどんどん上がっていく一方で、自分はここにいていいのだろうか、学校に行くと居心地が悪い、すごく苦しいとなったときに、ここにもあそこにもどこにでも行く場所がある

のだよというような、安心して過ごせるような場所がある教育の視点を持つというようなところ、そこに繋がるのは、やはりコミュニケーションなのではと考えます。

昨今、愛着障害など言われていますが、色々な考え方で治る治らないみたいなこともありますけど、先日教育委員会主催で教養講座があったときに、和歌山大学の米澤好史先生がいらして、愛着障害はいつからでも、治すことができる。そこにやはり安心する人間関係が発生することで、愛着障害が解決していくというふうにはっきりとおっしゃっています。そういうような視点のあるようなまちづくり、そういう教育環境が必要と考えます。もちろん、それは学校でできれば一番いいのですが学校は、通うのが難しいのであれば相談室だとか地域のコミュニティとか図書館とか、色々な場所に繋がっていくような、そのような視点感のあるようなものが、政策の中に入していくといいと思います。コミュニケーションがキーワードであり、ここにいていいんだよ、という安心感というものも、何かしらどこかのキーワードで入れていただけるといいかなと思いました。

以上です。

○松戸市長

ありがとうございます。

これ今おっしゃったことは市の施策でいうと、地域の居場所づくりとかあったと思うのですけれども。4つの柱の中にもう少し突っ込んで書いてということですかね。わかりました。

それは他にご意見等あればお願ひします。

(武田委員)

ちょっとこれは、個人的な意見ですけれども、先ほど文化のところで、国際的な視野でというのをちょっとと、伊藤委員がおっしゃってくださったので、私もその通りだと思っていたのでよかったです。一方で、千葉というのは、日本全国から見ても、現実的には伝統工芸的なものがあまり存在していないという、少し稀な地域で、かつ、松戸というのは、流動人口が非常に多い、ないとまでは言わないのですが、愛着に結びつくまでの文化財をというのが、とても難しいかなというところではあります。

だけど、逆に言うならば、今は日本文化というのは世界から注目されているんですね。日本が、エコールドパリの時代みたいに世界に文化を求めていく時代感ではなくて、逆で、日本の文化はすごい珍しいものがたくさんあるし、注目されているというのが今の時代感だと思います。そういう日本文化を伝えるということを、例えば何か有名なものの産地とかというわけではないので日本の全国の色々な文化を平たく理解して、そういうことが理解できるこどもを育てるような、そういうことができる割と珍しい地域であるということを、逆に得意として、学習の中にそういうものを盛り込んでいくと、もっと文化的な素養が育つかなと思うんですね。もっと広い視野で日本文化を学習することを取り組んでいる市なんだよというのも、或いは、この松戸の文化の愛着とかだけに特化せずにいいのではないかなど。その中で、例えば今、文化財として松戸が指定しているものは、この素晴らしいものに類するものなんだよという学習の仕方で現場を見に行くとか、そういう理解の深め方を、教育現場の中に落とし込んでいただくというような形だと可能なのかなというふうに思います。何か大上段に構えて愛着を持てと言ってもなかなかそれは厳しい話で、だけれどもそうじゃなくて、もっと広い視野で日本文化に注目することをスタート地点にして、日本文化を理解する感覚を教育の中に落と

し込んで欲しい。そういう中で最後のこの愛着を持つというのは、あくまでも参考資料も松戸の中にはたくさんありますよという形が、ベターかなと思っています。

(波田教育長)

さっき私発言で、例えば明治期のことを勉強したら松戸の明治はどうだったのというところで、そこで終わりではなくて、今、武田委員がおっしゃったように、あくまでも小学生や中学生の学びというのは、きっかけづくり、だから、一般的なことを学んで松戸どうだったのかなと思ったところからさらに、千葉県はどうなのかなとか日本全国はどうなのかなとか、世界はどうなのかなというふうに、視野を広げていくことがすごく重要だと私も同感です。

ただちょっと松戸に限定するわけではないというところだけ、ちょっと補足でお話させていただきたいし、例えば松戸で育ったこどもを松戸で抱え込むのではなくて、松戸で育ったこどもがもう本当に日本全国と言わずに世界で活躍できる人材であって欲しいなと思いますので、そういう本当に大きな支えになるような大綱でありたいし、この大綱を受けてやはり私たち教育委員会が今、作成途中ですけれども、教育振興計画などもあるというふうに思っていかないといけないなと思っていますので、大きなやはり理念というのが非常に重要なと感ります。

(和座委員)

ちょっと触発されてしまったので話しますけど、前に私何かの講演会のとき聞いたのですが、皆さんは松戸でお生まれになった或いは松戸の関係の方いらっしゃいませんか、ということで手挙げてもらつたら1割ぐらいですかね。

私の故郷の金沢だと、大体8割ぐらいが手上がるんですよね。だから、やはり松戸はそういう意味では色々な人たちがたくさん集まっている、ある意味でアメリカのような社会、という部分があって、今の話と繋がるんですけども、やはり色々な人たちが様々な文化とか背景を持って集まっている町というのには本にある意味では東京の周辺の、1つの特徴かもしれないけど、松戸はまさにそういうふうな部分なので、この特徴では非ね、今の話の中で生かしていただければなと思いました。

(中西委員)

関連して今、のお話を伺ってですね、最後に松戸に誇りと愛着を持つ心を育てますという話ところはですね、本来なら、その基本理念の方にいく話ではないかなとも思いました。

歴史文化保護継承でそれを学ぶということももちろん、その誇りと愛着を持つ心に繋がるのだと思うのですが、それだけではないので、もう少し、愛着とか誇りを持つのは、もっと色々な要素があると思いますので、すんなり読むと、読めてしまうのですけれども、この最後の部分と、繋がりこれでいいのかなというのをちょっと疑問に思いました。

以上です。

○松戸市長

ありがとうございます。

確かにさっと読めてしまうのですけれども、本当にその辺りは精査をしないといけないなというふうに思います。

先ほど和座委員がおっしゃった金沢に関しても松戸に関しても人口50万の都市ということで、同じ人口規模ですけれども、

(和座委員)

だけど僕はね、ある意味では非常にそういう部分というのは、良い部分と悪い部分がありますから、やはりかなり伝統に縛られてしまっている部分あるのですよね。

逆に、ところがこちらの方は本当に色々なことを、どんどんどんどんやっているという、そういった外向きというかな、そういう部分があって一長一短だと思います。

○松戸市長

そうですね。

まだ新しいながらも松戸にある歴史はあるのですけれども、ただ松戸特有というわけではなくてですね、やはり日本の歴史とか伝統がありながらの、松戸。

先ほど歴史もそうですけれども、という部分もありますので、おっしゃる通り松戸だけを学ぶのではなくてですね、日本の色々な文化伝統とか色々なものを学びながら、その時の松戸はどうだったのか、松戸の伝統はどうなんだということ見ると、ここは旧水戸街道が通って、そのころの雰囲気であるとか、考え方方が反映されているわけですね。

そういったことをリンクしながらやっていかなきゃいけない。日本人として、地域の人間として、やはり誇りを持てるような人材を育てたいなあと私は思っています。

(伊藤委員)

主な施策についてですが、是非この1の中に、左の柱の中にも、言葉はありますけれども、グローバル化という言葉に対応して、いわゆるグローバル教育の推進というのを是非入れていただきたいと思います。

グローバル教育というのは、もう、皆さん意味がわかっているしそういう言葉として使われていますので、グローバル教育の推進を是非入れていただきたいと思います。あと2点目は、すでに松戸市としてしっかり対応していることですが、外国籍の生徒児童への日本語教育支援というのは、今後も増えていくと思いますので、細かいことかもしませんが大きな施策として、打ち出していいのではないかなと思いますので、支障がなければこの中に入れていただきたいなと思います。

それから、2の方の環境を整えるというところで建物の関係とか色々なことがあげられていますけれども、大事な点として教職員の働き方改革というか教職員が本当に気持ちよく働くというのがやはり環境に非常に大きな役割を果たしていくのは当然のことだと思いますので、そういう教職員の働き方改革の推進をきちんと市として、或いは教育委員会として力を入れて、施策の柱として、やっていきますということを、何か入れていただければと思います。

○松戸市長

ありがとうございます。

おっしゃる通り、グローバル教育であるとか日本語教育、教員の働き方改革に関して松戸市もやらなければいけないし、やっている部分でもありますので。

そこをどこに紐づけるかということありますので、そこは少し考えさせていただきたいと思っております。

ありがとうございます。

(和座委員)

これも何回か言っていることなのですから、子どもの権利と、それからあと子どもまんなか、その部分での関係なのですから、子どもの権利の中でも、4つあります4番目の参加する権利ということが、その子どもの声を聞くというのが先ほど色々ありましたけれど、そこと非常に密接にリンクする人権なのですよね。

だから、子どもが何らかの形で色々なことに参加して、自分が主役となってそこで色々な発言をして、場合によってはそれが社会を変えることができれば、子どもたちと、将来、自分は政治家になろうかとか思うかもしれませんよね。

もっと民主主義というか政治と関係したような形で、もっと考えられるようになってくるかもしれません。だから子どもたちを、そういう意味で、自分たちの思いをある意味では表現させて、そしてそれを実現するように大人たちがバックアップすることによって、子どもたちの肯定感というか、受容感というか先ほど話が出たけどそういうのはすごく僕は上がっていくと思います。

だから、そういう意味で人権の中でもその4番目の人権というところをすごく重要視、大きくフォーカスしていただければですね、その中にもちろん4つ全部大切なですけども、その中で、子どもたちがいかにその声を、僕らが聞きながらまた声を出して、そして、参画できるようなそういった多分方向性を、こここの部分は僕は落とし込められるのではないかなと思います。

以上です。

○松戸市長

ありがとうございます。

本当に子どもの声を聞く、先ほどからおっしゃられる通りだと思います。

他の自治体でこんな取り組みがあるとかご存じの方いらっしゃいますか。

(山形委員)

世田谷区の教育大綱が、子どもの意見が反映されているというのを聞きました。

(和座委員)

あと選挙するっていうのもありますよね。

なんか選挙委員会というのを一応作ってですね、それで子どもたちが投票する。

もちろんそれは選挙の中のきちんとしたものではありませんけれども。

そういうことをすることで、やはり、或いは子ども議会というのを作って、みんなで施策について話すとかね、色々なことをやっているところがあるようです。

先日コルチャック先生という映画を見たのですけども、これはコルチャックさんという先生、ポーランドに住むユダヤ人で、当時、ユダヤの子どもたちを、100人ぐらい集めて個人医院をやっていた小児科の先生なんですね。当時、ナチスが入ってきて、ポーランドでそういうふうなことをやっていた子どもたちを全部、強制収容所に連れて行く。その中で、結局、ガス室で亡くなってしまうのです

けれども、コルチャック先生はその当時もうすでに有名だったために、周りから先生は特別だから入らなくていいんだよと、ぜひ戻ってきてくださいとみんなから言われたのですが、私はこどもたち見捨てることはできないと言って、実際に入り彼自身も亡くなってしまったという、そういうことをワイダ監督というポーランドの有名な監督が作った映画なんですね。

その中で、コルチャック先生自身が、こどもから裁判所に裁判の被告人として、裁かれているような場所があつたりして僕はびっくりしたのですけれども、つまり、こどもたちがいかに自由にやっていたかということですね。

先生の中で私がこのように被告になつたらこどもたちに教えられませんというようなセリフがありました。

だからそのような感じで、非常にこどもたちの主体性を、当時もうすでにやっていたということで僕は本当にすばらしい映画だったなと思ってこの間見たのでお話させていただきました。

以上です。

(中西委員)

今のこども議会云々のお話に関連してですけれども、ご存じかもしませんが、いくつか予算を確保してですね、こどもが提案したものを実際に施策化するという自治体も幾つも出ていると思います。

○松戸市長

そうですね。こどもだけに限らず市民の皆さんのが考えたものを反映すると、予算の1%とかですね、そういうところは結構ありますよね。

(武田委員)

自治体名は忘れてしまったのですが、いじめに対する何か提案というか、こういうことしましょうといったような目標をこどもたちの代表の子たちだけで会議して決めて、目標達成をまた次の年にみんなで話し合ってという取り組みをやっていると、確か教育委員会で連れていっていただいた勉強会でお伺いしたことを思い出しました。こどもが主体的に自分たちで決めると、結構真剣にそれに対して取り組むということで、やはり効果として自分で決めたことに対する注力が強いのかなと思います。その勉強会の際にやはり効果が大きいのだなと思ったのを記憶しているのは、やはりこどもの参加というか、自認的に言ったことに対してはやはり自覚を持って取り組むという体制を、是非強化するよな何か施策というのを盛り込んでいただきたいなと思います。

(波田教育長)

理念的な話から具体化していったのでどうかなと思う部分はあるのですが、とても大切なことで、私も今、学校に取り組んで欲しいことの1つに、特別活動、いわゆる学級会があります。

何年か昔は、何かこう提案してどっちにするという時に多数決というのが、議決のやり方、方法として根付いていたのですけれども、今はそうではなくていわゆる合意形成をするということですね。

こどもたち自身が今武田委員おっしゃいましたけど、何か1つ、こどもたちが決めて、きちんと少数意見も含めて議論をして、自分たちで合意形成したものは守りますけど、親が何しなさいとか、教員がここはこうしなさいとかと言ったものはなかなか守れないというのが現実で、やはり自分ごととして捉えているかということなので、少し理念の話とずれてしまうのかもしれませんけど、具体的な施策

に取り組んでいくときに、そういった本当に子どもの意見を吸い上げたり子どもたちみずからこれは子どもだけではなくても市民の皆さんもそうですよね。色々な文化活動をされてらっしゃる方、スポーツ活動されてらっしゃる方いらっしゃると思いますが、皆さん自身が決めたものだと、やはり合意形成して納得して守っていきましょうよと。

市がこうしなさいとか、誰かがこうしなさいというものについては、意外と不満をどうしても自分事として考えて不満を持つてしまうので、そういうような教育というのは、これからは特に小学生中学生段階では必要だなというふうに思っています。今、学校には、そんなことをお願いしているところです。

(山形委員)

今のお話からの流れで、幸福度の調査の中で1つ早稲田大学の調査だったと思いますが、経済的な豊かさとかよりも、自分で決めたこと、自己決定が幸福度に直結しているというものがあります。まさにその保護者が決めたことではなくて、自分で決めたことが幸せを上げていると。そのために、学習して選択肢を選ぶことができるということが、まさに教育だと思います。私は包括的性教育を実践していますが、人権をベースとした科学的根拠があるので、そこで一番大事にしていることも自己決定なんです。自分で決めることをとにかくできるための科学的な学びということをやっています。そういうキーワードも、是非入れていくといいと思います。先ほど伊藤委員もこの施策のところでご意見があったので、私も②の学校保健体育の充実の点で、先ほどライフデザインというお話もありましたが、ライフデザインの中にプレコンセプションケアと包括的性教育の両方入っていくことによって、子どもたちが将来、先ほど和座委員からも子宮頸癌の話がありましたけれども、自分が人生を歩んでいく中で大事なポイントのときに、選べること、学んでいって自分で決められることについて、重点的なポイントもあると思うのでそういうところも入れていただけると、他の市ではない取り組みになるかなと思いました。

以上です。

○松戸市長

ありがとうございます。

やはり子どもが自己決定をし、その声をきちんとこの行政なり、教育がきちんと聞いてですね、それが何らかの形に反映をするということが、子どもの成長にとって教育にとっては、権利の面でも大事なのかなあということなので、何らかの形でね、非常に難しいと思うのですけれども、この中に入れ込めばなと思います。皆さん思いは多分同じというかですね、共通しているところだと思いますので、そこは考えたいと思っております。

残り時間もわずかになって参りましたが、まだ、発言したいという方がいれば、いただければと思うのですけれども、いかがでしょうか。

(武田委員)

質問になるのですけれども、デジタル化、ＩＣＴ教育について、どういうデジタル環境みたいなものを目指しているかについて、市長の考えをお伺いしたいなと思っているのですけれども。

どういった未来を描いているのか。

○松戸市長

今までのデジタル化というのは、タブレットを1人1人に渡してですね、どうぞと言う感じだったのですけれども、先ほどおっしゃったように、教える側もまだ家庭がどういう形で教えるのがいいのか、なかなかわからないという状況があって、ハードはいいけどコンテンツが充実していないというのがこれまであったと思います。

ただ、これからさらに今生成AIなどが進む中で、これまで覚えてアウトプットすればいい点数取れて、すごいねという時代ではなくなってきているような感じがしています。

今AirPodsなどをつければほぼ同時通訳になってきていますので、一生懸命単語を何千個覚えれば何々大学受かるよと、話せるようになるよという時代から若干変わってきて、やはりその相手を理解していく、その言葉いうのはツールなので、その先にある理解をして、どう生きていくかということを、今までも大事だったのですが、より今まで以上に学ぶ時間が増えてくるし、そういう人材が求められてくると思います。AI時代、タブレット1台とかいう時代ではなくて、よりさらに先にいった考え方を教育に入れていかなければいけないのかなと思います。

もちろん基礎教育ではあるので、小中、中等教育でもありますので、そこまでのAIとかですね、なかなかそんな細かく教えられないと思うのですけれども、考え方としてですね、デジタルの社会の中ではそういう人材をまず基礎の部分で、考え方を育てたれればいいなと思っています。

○松戸市長

本日は本当に貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。

本当にですね、様々な観点から、貴重なご意見をいただくことができたと思っております。

なかなかどこまで文言としてですね、落とし込むということがここから難しい作業になってくると思います。

ただ、思いということをしっかり受けとめてですね、子どもの権利の部分であるとか、しっかりと反映できるように、市としてもしっかりと進めていきたいと思っております。

また次回ですね、ここからさらにたたき台というかですね、案という形で、教育大綱のこの基本理念の部分を含めて提案をさせていただきますので、その際も是非、年明けぐらいですかね、またご意見をいただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは最後に事務局から連絡事項があればお願ひいたします。

○渡邊政策推進課長

長時間にわたりましてありがとうございました。

次回の会議の開催日程につきましては、市長部局事務局と教育委員会事務局と協議をさせていただき、決定しましたら、ご連絡をさせていただきます。

なお、次回の会議では、教育大綱の見直し案をお示しする予定でございますのでよろしくお願ひいたします。

連絡事項は以上でございます。

○松戸市長

それでは、以上で第2回目の総合教育会議を終了させていただきます。

お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございました。

